

糖尿病の重症化予防に向けた地域と 医療機関との具体的な連携方法を考える

★平成31年3月7日

熊本県保健事業支援・評価委員会研修会

3月7日、グランメッセ熊本で、本会並びに熊本県保健事業支援・評価委員会が主催する研修会が行われ、県内保険者や熊本県保険者協議会の関係職員(事務職、保健師、管理栄養士等)123人が参加した。

熊本県保健事業支援・評価委員会は、今年度から県内10地区において、医療と地域の連携促進並びに「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」の推進に向けて検討を進めていくことを目的に、地区学習会を開催している。本研修会は、その地区学習会の報告並びに連携の好取組の紹介、糖尿病の方への保健指導の充実を図ることを目的に開催された。

始めに、本会職員から統計資料等を用いて、各地区学習会の内容紹介、健診・医療データからみえる本県の糖尿病に係る状況についての説明を行った。

次に、医療と地域の連携に向けた取組報告として、ひがし成人・循環器内科クリニックの東院長(玉名郡市医師会理事)及び玉名市保健予防課の田尻保健師から、玉名郡市で実施している「糖尿病性腎症重症化予防の実践」について報告があった。

最後に、熊本大学医学部附属病院 糖尿病・代謝・内分泌内科の石井特任助教から、「糖尿病の病態や治療内容を理解するための学習」と題した講義が行われた。

取組報告と講義の内容は次のとおりであった。

取組報告

東院長からは、「玉名郡市医師会に提供された玉名市作成の資料から、市民の健康実態が把握でき、糖尿病の重症化予防には健診受診率の向上が重要であることを、玉名市と共有できた」と報告があった。

また、「特定健診受診促進のための医療機関への啓発」や「糖尿病性腎症予防の取り組み内容」さらには、「ワーキンググループを立ち上げた経緯やワーキンググループ会議の取り組み内容」など、玉名郡市医師会として取り組んだ事業内容についても説明があった。

田尻保健師からは、現在の重症化予防の実践内容や保健指導の力量形成のための学習方法について詳しく報告があった。

特に、ワーキング会議における実態共有のための資料の提示や、ワーキングで出た意見から次の活動に発展させていく実践過程の報告は、課題解決へのプロセスがしっかりと踏まれており、着実に保健活動の実践に繋がっていた。

参加者からは、「糖尿病連携手帳の活用に至るまでの過程を学ぶことができ大変参考になった」、「玉名市のように医療連携が進むよう、今回の報告を参考にして頑張りたい」等の感想が聞かれた。



ひがし成人・
循環器内科クリニック
東院長



講 義

石井特任助教からは、糖尿病に係る学習として、2型糖尿病の発症リスクのエビデンスや病態の概念、低血糖や急性合併症の症例、インスリン療法時の保健指導のポイント等について、実際の症例を基に講義があった。

本県の保健指導の取り組みでは、特定保健指導対象者に限らず、各保険者で地域の特性を踏まえ、優先順位を付けて実施しており、対象者選定の上でも大変参考になる講義であった。

参加者からは「軽症糖尿病についてしっかり学習したいと感じた」、「インスリン療法を受けている方への指導のあり方が勉強になった」、「急性合併症の具体的な事例が分かり勉強になった」等の感想が聞かれた。



【問合せ先】

保健事業支援課 保健事業係

TEL : 096-365-0976